



コミュニティセンターだより

平成30年12月20日 出西コミュニティセンター総務部発行

TEL. 72-9204 FAX.72-9206 E-mail shussai-cc@local.city.izumo.shimane.jp

第23号

【世帯数】
1,562戸
【人口】
4,827人
(H30.10.31現在)

災害に備え、地域の防災力を高めよう

避難所運営ゲーム

H29
8/19
63人



避難所運営に当たり、様々な避難者を想定し、適切に対応する卓上訓練

DIG 訓練(災害図上訓練)

H30
8/21
52人



地図を用いた、危険箇所、避難ルートの確認など災害対策の訓練

氷室2(避難、救命救急)訓練

H30
3/25
19人

自治会単独開催のトップを切って実施。7月には原子力発電所を視察するなどモデル的な取組を展開。

氷室第2自治会公民館

千家2(避難、救命救急)訓練

H30
7/22
50人

自治会加入が増加する農家と新興住宅が混在する地域。新たに居を構えられた子育て世代の方も積極的に参加。

あい川保育園

求院1(避難、救命救急)訓練

H30
10/28
29人

24世帯から女性も多数参加。隣保単位で避難行動等の確認など話し合いも行った。

西求院交流館

隣近所での助け合いが重要

出西地区災害対策委員会

委員長 神門 保雄

出西地区災害対策委員会も発足以来5年半が経過しました。当初は、各自治会間の防災意識の温度差を感じておりましたが、防災委員さん、自治会長さんを中心に防災意識が少しずつ高まってきていると思います。

さて「災害は、忘れた頃にやってくる。」という言葉があります。日頃思いもかけない場所で、また時間に災害は起こります。とりわけ、4月9日深夜の震度5弱の地震では、皆様大変怖い思いをされたと思います。しかし、半年も過ぎると怖い思いや災害に対する心構えをつい忘れてしまいます。日頃から「自分の命は自分で守る」心構えと、いざという時に助け合える隣近所、自治会の体制が重要です。テレビ等の報道でも大きな災害発生時は、たくさんの方が家族、隣近所の人によって助けられています。日頃から、隣近所で声を掛け合う関係ができていくことで、犠牲が最小限に食い止められます。

出西地区では、平成28年度から自治会長さんの兼務ではなく、専任の防災委員さんの選出をお願いしております。今年度も、防災委員さん、自治会長さんを中心に自治会単位の防災・避難、救急救命訓練が実施されています。出西地区全体の訓練、研修会に加えて、引き続き自治会単位の自主的な訓練をお願いいたします。今後、防災委員さんには、自治会内のまとめ役をお願いしたいと思っています。

今後の具体的な課題としては、要支援者の把握、安否確認、避難態勢の構築、また、今後増加が予想される外国人の方、自治会未加入の方への対応などがあげられます。

皆様の格別なご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

大切な日頃の備え、防災の知識

近年、局所的なゲリラ豪雨や地震などが多発し、いつ私たちが災害に巻き込まれるか分かりません。もしもの時に備え、日頃から自治会単位、隣近所、家庭で、災害時の行動について話し合っておきましょう。

日頃の備え

《自治会では》

- すでに自治会単位で防災委員会を中心に危険箇所、一時避難所、避難時に配慮がいる人の確認を行っています。機会あるごとに見直しを行い、情報を共有しましょう。
- 出来るだけ早い機会に、自治会単位等で避難訓練を行い、いざという時に備えましょう。

《家庭では》

- 市から配布されたハザードマップ、自治会で話し合われた事柄を家族全体で確認しておきましょう。
- 非常持出品を準備し、お互いに「避難の心得」（右記）を確認しておきましょう。

災害の危険が迫ったら

- 災害の危険がある場合、必要と認められる地域に市から避難情報が発表されます。
- 下表の上から下へ、緊急度が高まります。

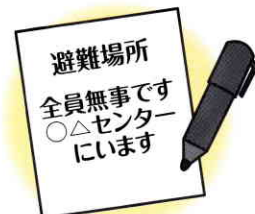
市の避難情報	対象となった地域の皆さんの行動
避難準備・高齢者等避難開始	<ul style="list-style-type: none">・避難に時間がかかる人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児をお連れの方など）とその支援者は避難を始めましょう。・その他の人は、避難の準備を整えましょう。
避難勧告	<ul style="list-style-type: none">・速やかに避難場所へ避難しましょう。・指定の避難場所に向かうことでかえって命に危険が及ぶようなときは、近くの安全な場所や、建物内のより安全な場所に避難しましょう。
避難指示（緊急）	<ul style="list-style-type: none">・まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難しましょう。・外出することでかえって命に危険が及ぶようなときは、近くの安全な場所や、建物内のより安全な場所に避難しましょう。

避難の心得

①気象情報や防災情報をよく確認



②避難する場合は避難先、安否状況のメモを家に残す



③動きやすく安全な服装で

④緊急時に備えて日頃から準備を

⑤車は使わず、歩いて避難（特別な場合を除く）



⑥危険なところに近づかない

⑦お年寄りや子ども、病気の人、障がい者を優先



⑧ひとりで行動しない（家族や近所の人と集団で行動）

⑨近所への声かけ（高齢者世帯等に積極的に声をかけ、安否の確認と避難の支援を）

昭和39年山陰豪雨災害の教訓

下出西 1 川内 章正

今年は日本各地で豪雨、台風、地震など大きな自然災害に見舞われた年でした。被災された方々には心からお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈りしています。

東日本大震災以降、大きな自然災害が起るたびによく耳にするのが、「想定外」という言葉ですが、私もこの想定外を経験したことがあります。今から50年以上前のことですが、小学校に入学し、夏休みも間もない夜のことでした。12時過ぎに「すぐ避難する」と親からたたき起こされ、「山から地鳴りがし、木の折れる音がした、山が崩れた」とのことで、親からの情報はこれだけでしたが、子供心に大変なことが起こったと感じました。

これが、7月18日から19日にかけての「昭和39年7月山陰北陸豪雨」でした。この日までに数日間雨が続き、この日は小雨だったと思います。起こされてから10分か15分後には家を出て木戸道を降りたのですが、夕方まであった道がありません。谷間を土石流の瓦礫が覆っていました。足元は泥流でぬかるみ、暗い懐中電灯をたよりに山際の木にしがみつकिながら避難をしたのを覚えています。

当時は、このような災害を想定することはなかったと思いますし、現在のように一時避難所もなく、避難先も各々山沿いから離れた個人宅に避難し、お世話になりました。

今日では多くの情報を得ることができます。甚大な被害を及ぼす自然災害が発生するリスクは少ないかもしれませんが、しかし、現実問題としてどの程度想定しているのでしょうか。個人によって事情は違うと思いますが、危険個所の確認や避難経路についても、日ごろから準備が必要だと、幼い頃のことを思い出しながら再確認をしました。



昭和39年山陰豪雨災害時 池田哲夫氏宅裏庭とその周辺で行われた救助のようす（下出西 1 池田亮治氏提供）

最寄りの指定緊急避難所（兼指定避難所）

〔凡例〕○ 適用性あり ▼ 浸水想定区域内施設で要安全確認

避難所開設予定施設名称	所 在	災害適用性の判定					標高 (m)
		地震	水害判定		土砂災害	津波	
			計画規模	想定最大規模			
出西コミュニティセンター	求 院	○	▼	▼	○	○	13.3
出西保育園	出 西	○	○	▼	○	○	11.9
企業化支援センター	神 氷	○	○	○	○	○	23.6
西野小学校（体育館）	富 村	○	▼	▼	○	○	10.5
アクティーひかわ	上直江	○	○	▼	○	○	10.1

○避難所は、市が安全確認を行ってから開設します。

○開設した場合は、防災行政無線、ホームページ、ICV、広報車等でお知らせします。

地区災害対策本部から、適宜、各自治会防災委員を経由した連絡網で各戸に連絡します。

○表中「計画規模」は、毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が 1/150 の降雨に伴う洪水により、国管理の斐伊川、神戸川（斐伊川放水路から下流）が氾濫した場合のシミュレーションによります。

○表中「想定最大規模」は、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により、国管理の斐伊川、神戸川（斐伊川放水路から下流）が氾濫した場合のシミュレーションによります。

お知らせ

「防災ハザードマップ」（平成30年度版、出雲市）、「わが家の防災チェック BOOK」（島根県）の予備がありますので、希望される方は、出西コミュニティセンターへお越しください。

多彩な交流を展開 10月13日(土)・14日(日) 出西地区文化祭を開催!



山下時子歌謡ショー
出西地区敬老会のゲスト、歌手の山下時子さん。歌にトークに大いに盛り上がりしました。



ゲートボール
第25回ふれあいゲートボール大会。今年も熱戦が繰り広げられました。



スペシャルコンサート
『シェーネ・クラマテーレ』によるクラリネットアンサンブル。素晴らしい演奏に大きな拍手が湧き起こりました。



多文化交流
出西地区敬老会に出演したわらべのうた保育園園児の保護者とそのお友達。出西地区でも多文化交流が進んでいます。

地域の皆様の作品展示、中学生、小学生、園児の作品展示やステージ発表。登録団体の発表会、敬老会、軽トラ市、ゲートボール大会など、各種イベントに多くの皆様にご来場いただきました。また、今年は自治会長の方に駐車場整理に協力していただくなど、多くのボランティアの方に支えられ多彩な交流を展開しました。



丸太切り
「大谷里山を活かす会」による丸太切り体験コーナー、子どもも大人も楽しみました。

※詳細についてはコミュニティセンター掲示板、ホームページをご覧ください

表彰おめでとうございます

10/29 出雲市自治会役員
感謝状贈呈
田坂 将 様(中出西5)

出西地区自治協会設立の平成24年から29年の6年間、自治協会会長を務められた田坂将様に自治振興に寄与された功勞に対して市長から感謝状が贈呈されました。



11/22 **「しまねナイスパートナー」**
に選定されました!
勝田治男様・由美子様ご夫妻
(下出西7)

お互いを尊重し協力し合いながら、積極的に地域活動に取り組んでいるパートナーとして、溝口善兵衛島根県知事より選定状を受けられました。ご夫婦で地域の青少年活動、福祉活動に尽力されています。治男様は昨年度まで地区青少年育成協議会会長を9年間務められ、また、現在も出西民児協支部長としてもご活躍です。由美子様は主任児童委員として、出西子育てサロンを運営するなど、地域づくりに貢献していただいています。また、治男様は市青少年育成者等功勞表彰も受けられました。



交通安全功勞で次の方々に表彰状が贈られました

島根県警察本部長・(一財)島根県交通安全協会連盟表彰
(交通安全功勞者)

出雲警察署長及び出雲市交通安全協会連盟表彰

青木康則 様(下出西6)
樋野 忠 様(神守1)

樋野 忠 様(神守1)
樋野繁雄 様(氷室3)

出西が 輩出した 偉人たち

鬼村元成の生涯

鬼村元成

おにむら もとしげ

上出西で誕生

鬼村元成は明治28年簸川郡出西村字上出西（現出雲市斐川町出西）の農家・鬼村豊太郎の子として生まれた。父・豊太郎は出西村字下阿宮の臨済宗全昌寺の寺男として奉公していた。元成は出生後、故あってその全昌寺で養育されることになった。その後、父は寺を辞し実家に戻り農業に勤しむことになった。元成は全昌寺で学齢期をむかえ、阿宮尋小、直江高小に学んだ。小学校では後に水沢緯度観測所長になった、池田徹郎（広島高師、京都帝大卒、理学博士）と同期生で生涯を通して交流があった。



鬼村 元成

…漱石は元成の人間性に惹かれ、ある時は慈父のまなざしで、ある時は禅の道の先達として、同じ目線で付き合える間柄になったのではなかろうか。元成は晩年の漱石に大きな感動を与えた青年僧であったと漱石研究者は口をそろえる。

現西脇市で住職、そして村長へ

元成は漱石没後も祥福寺で修行を続け都合11年間におよんだ。大正9年兵庫県・現西脇市の大通寺に晋山・住職となる。しかし「その後尚自分に得心出来ず」再修行のため昭和3年から7年まで再び祥福寺に戻り、相国寺管長橋本独山老師の叱正を受けるなど修行に励んだ。そして臨済宗総本山妙心寺の布教総監として台湾に派遣された。昭和16年任を終え大通寺に戻っている。昭和19年に住職を息子・清邦に譲って晴耕雨読の生活に入った。終戦後、こわれて兵庫県多可郡比延庄村の村長も務めた。



兵庫県西脇市・大通寺（西脇市観光協会提供）

神戸で修業、漱石との交流

明治44年、元成17歳の時、志を立て神戸・祥福寺に修行に行く。祥福寺は臨済宗妙心寺派屈指の道場で雲水も多かった。

修行5年目（大正3年4月）に初めて漱石に手紙を出した。それ以来、漱石の最期まで書簡は20余通に及んだ。また、漱石の招待で東京見物に行き、牛込区早稲田南町の漱石宅に泊まり漱石、鏡子夫婦の歓待を受けている。漱石からの返信2通目に次のような文面がある。

祥福寺の繪葉書ありがとうございます

私は今咽喉がはれて熱が出て床についてゐますもう治りかけの所でありますが怠儀だから長い手紙は書けません 私の手元に「三四郎、それから、門」この三書を縮刷したのが一部餘分がありますから夫を今日小包で送りますから御気に召したらお読みください。あなたのような若い人がそんなにひどい胃病にかゝるのは一寸變ですが病名がわかりますか出来るなら専門（原）の醫者にみてもらうといふが田舎の事だから仕方ないでせう よく療養なさい、夫から御寺に何も讀む本のないのも變ですが是も焚けたのならいたし方ない 然し景色がよくつて静かだからそんな所でも味って御楽しみなさい 以上

九（原）月六日 夏目金之助

鬼村 元成 様

帰郷、弟との対面

いよいよ悠々自適の生活に入った昭和30年頃、ふるさと出西・伊保の父豊太郎の実家に初めて訪れ「墓前に花を手向け、経をあげしばし黙禱を続けた」と当時を知る野村信子（豊太郎の孫、出雲市在住）が語った。この時が異母弟・鬼村國一郎と初めての対面であった。元成を門口まで送って「わしにはもう一人兄弟がいた」と父國一郎がぽつりと云ったのが忘れられないと信子は言う。この帰郷・対面は、元成の宿年の願いであったと云えよう。元成の胸中察して有り余るものがある。

昭和34年癌に取りつかれ、昭和36年2月に遷化、数え年享年67歳でその生涯を閉じた。

（文責 黒田 邦宏）

第14回島根文芸（平成28年度）銅賞入賞作品から抜粋。一部修正加筆

平成30年の後半は、出西の歴史に刻まれるような、出西初の重要な事柄が相次ぎました。今号では、「常松家住宅の国登録有形文化財への答申」など四つの話題をお届けします。

出西初、常松家住宅が国登録有形文化財に

常松家住宅（求院、常松豪氏宅）が、11月16日、国の文化審議会から、国登録有形文化財にするよう、文部科学大臣に答申されました。出西はもとより斐川で初めてのことです。



常松家は旧庄屋宅。明治7年建設の木造平屋建て茅葺きの主屋と東側にL字型に接続する離れなど。茅葺きの大屋根と防風林の組み合わせが出雲平野の伝統的な民家形式をよく残していると評価されました。

明治6年8月に当地を襲った大洪水（「求院切れ」）後に再建されたもので、一帯で現存する最古の民家。出西の歴史と文化を象徴する大変貴重な文化財といえます。

出西そば打ち教室、「くれ食の祭典」で脚光

出西そば打ち教室（青木誠会長、19人）が、11月4日、呉市で開催された全国イベント「2018 くれ食の祭典」に出店し、大好評を博しました。出雲市観光課の推薦で「出雲そば」では初めて同好会として参加。今回は代表8人が前日に仕込んだ釜揚げそばを販売しました。



予定した300食が午後2時には完売となり、出雲そばを通じて出雲とその食文化のアピールに貢献しました。

同教室は、平成21年に結成。自らそばを栽培し、デイサービスのお年寄りに提供するなど地域に根差した活動を展開中です。

「多文化共生」で市議会議員と意見交換



「市議会と市民との意見交換会」が11月9日、出西コミュニティセンターであり、議員10人と住民35人が、「多文化共生と交流促進」をテーマに、熱心に討議しました。

市議会広報聴取委員会が試行的に行ったもの。出西地区でもブラジル人が90人近く居住。「多文化共生のあるべき姿を示してほしい」「交流機会を増やすべき」「やさしい日本語を使おう」など活発な意見交換が行われました。自治協会では、多文化共生に向けて、文化祭への招待、やさしい日本語講座など取組を始めたところ。さらに広く住民の皆さんに参加を呼びかけてまいります。

追悼特別展「多々納弘光の仕事」開催



昨年6月に90歳で亡くなられた出西窯の創業リーダー、多々納弘光さんの作品展が、7月26日から出雲民藝館（知井宮町）で開催、多くの方が、氏の作品の美しさ、奥行き・幅の広さに触れました。氏は、陶工としても傑出した存在で、分業として

取っ手付けを担う一方で、轆轤を用いない型物で、櫛描、縄文、指描などを駆使し多くの作品を作り、出西窯の作品群に多様性、広がりをもたらしていました。2月24日まで延長して開催されます。

コミセンでは、運営委員等18人が研修の一環で、12月1日の多々納真氏（ご子息）のトークショーに合わせ、作品を鑑賞しました。

斐川西中学校3年鬼村帆香さんと佐藤莉瑚さんが出西コミュニティセンターで職場体験。

鬼村さんは4コマまんが、佐藤さんはイラストを寄稿。



佐藤莉瑚さんの作品



鬼村帆香さんの作品

奉仕御礼

- ・西野野球スポーツ少年団様
- ・出西相撲甚句会様
- ・出西民謡同好会様
- ・神立寿昌クラブ様
- ・パソコンクラブ様
- ・なかよし会様
- ・コミセン女性部やまびこの会様

このほか、登録団体の皆様に花壇の水やりに協力をいただきました。

香典返し（H30.12.7現在）

今岡 寿昭 様（下出西10） 池田 孝雄 様（神守4）
池田 正記 様（神守4） 多々納房子 様（下出西2）
ご寄贈お礼
間賀部和夫 様（千家2） もち米60キロ
高見恵美子 様（下出西7） 池田敏雄氏関連図書5冊
軽トラ市古書売上 11,175円

お知らせ コミセンの年末年始の休館について

平成30年12月29日（土）から平成31年1月3日（木）まで一般業務をお休みします

リサイクルステーションの利用について

平成30年12月29日（土）・30日（日）は閉鎖します